



今月の特集関連本

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート (p.1251) に
ご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



検査値と画像データから読み解く 薬効・副作用評価マニュアル

吉村知哲、岩本卓也＝編

定価 4,400 円／B6 変判・560 頁／医学書院／2022

薬効や副作用の評価に必要な「臨床検査」や「画像検査」の情報を“オールインワン”に凝縮した1冊。よく処方される薬と臨床検査・画像検査のポイントを「薬⇔検査」の双方向の切り口で編集した。第Ⅰ部の「薬→検査」では薬効別に、①疾患に関連する薬・自覚症状・検査→②薬の評価項目とタイミング→③治療効果(④副作用)の評価に必要な臨床検査と画像検査→⑤薬剤選択の考え方→⑥評価から介入までのフローチャート→⑦記録の書き方という流れで記載。第Ⅱ部の「検査→薬」では、検査ごとにその評価ポイントを解説した。



治療薬マニュアル 2022

高久史磨、矢崎義雄＝監修

北原光夫、上野文昭、越前宏俊＝編集

定価 5,500 円／B6 判・2,880 頁／医学書院／2022

2022 年度版では、後発医薬品に関する情報をさらに充実させるため、①「オーソライズドジェネリック (AG)」および「バイオシミラー (BS)」のアイコンを新設し、②電子版による情報提供を充実させ、さらに③公式サイトでの情報提供を実施した。これは、本書発行後に収載された新薬情報を掲載するもので、次年度版を待つことなく最新情報を利用できる。



医薬品情報のひきだし

奥田真弘＝監修

村阪敏規＝執筆

妹尾昌幸＝執筆協力

定価 3,960 円／B5 判・326 頁／医学書院／2020

PPI (プロトンポンプ阻害薬) の副作用で下痢が発現する理由は？ アセトアミノフェン経口製剤は空腹時に服薬できる？ 錠剤を粉砕した時の重量ロス？ 本書は、臨床現場で迷いがちな、こんな薬の疑問を迅速・的確に解決するための情報が詰まった“ひきだし”である。大学病院で DI (drug information) 業務の実務経験を重ね、現在ウェブサイト「CloseDi—薬剤師のための医薬品情報編集室」(<https://closedi.jp/>) を主宰する気鋭の若手が執筆。医学論文、医薬品添付文書、医薬品インタビューフォームに基づく解説が豊富で、DI 業務の考え方も楽しく学べる！